

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

kasukabe | Plus

Plus
かすかべプラス

2015 FALL/WINTER vol.5

「日本一幸せに暮らせるまち」をめざして



新・春日部市施行10周年記念

かすかべの人々の幸せアルバム

新しくなる公園にワクワク！ 子どもたちの笑顔がさらに増える

平成24年度から行われている公園のリニューアル事業。
27年度はみどり第1公園を実施。

「武里みどり住宅地自治会」の田中あんずさんは、
リニューアル済みの藤塚第3公園を訪問した。



「こんなにピカピカの遊具がある公園になるんですね」

と目を細める田中あんずさん。一緒に来た子どもたちも元気に走り回る。

市では、平成24年度から「子育てふれあい公園リニューアル事業」を開始。市内の公園を毎年2カ所程度リニューアルしている。公園の老朽化した遊具や休養施設を更新するとともに、出入り口や、園路などをバリアフリー化し、子どもから高齢者までの幅広い世代が一緒にふれあえる公園を目指す。事前に地域住民にヒアリングし、その声をリニューアルに活かしているのも、これまでにない特徴的な取り組みだ。

27年度はみどり第1公園をリニューアルする。武里みどり住宅地自治会の田中さんは、市の公園緑地課森田主査とともに、リニューアル済みの藤塚第3公園を訪れ、近隣のお母さんたちの声に耳を傾けた。

「樹木が整理されて公園が明るくなって安全になった」「砂場にカバーができて衛生的になったから安心」「小さい子供の遊具ができてうれしい」

藤塚第3公園のリニューアルに、お母さんたちは大満足だ。森田主査は、



意見交換会で「今日の意見を活かしてよりよい公園を作ってほしい」と自ら撮影した写真をもとに説明する武里みどり住宅地自治会・新貴茂会長。



kasukabe PROJECT:01

子育てふれあい公園リニューアル事業

平成24年度から開始。市内の公園は、急速な人口増加と市街地の拡大に対応して整備されたものが多く、20年以上経過し、老朽化も進行。また、地域住民の高齢化や少子化などによるライフスタイルの多様化に伴い、公園に対するニーズが変化していることから、これまでの公園機能を見直し、住民のニーズに合わせた整備を進めている。



写真左から

酒井明美さん 春日部在住歴8年
溝口 菜(しおり)ちゃん
酒井剛緒(りお)ちゃん
〈前列〉
田中沙季(さき)ちゃん
田中心望(こころ)ちゃん
田中あんずさん 春日部在住歴8年
〈後列〉
橘 美和さん 春日部在住歴10年
溝口正美さん 春日部在住歴10年
橘 侑希(ゆうき)ちゃん
〈右ページ〉
岡田明子さん 春日部在住歴11年
生方直美さん 春日部在住歴3年
生方快音(かいと)ちゃん
岡田 葵(あおい)ちゃん
生方桃歌(ももか)ちゃん

「こうして皆さんが喜んでくださるのがやりがいです」とうれしそう。

新しい公園で、まちのいろんな人とふれあいたい

5月18日、武里みどり住宅地自治会では、市の主催による2回目の意見交換会が行われた。

自治会からの参加者は、公園の近隣住民や子ども会の役員など総勢30名ほど。

どうすれば地域住民全員にとって使いやすい公園になるか、田中さんをはじめとする子育て世代も高齢の人たちも、積極的に発言。多くの意見が出た。意見交換会の終了後、参加者の両角實^{みずみ}さんは、

「市に何もかも任せるのではなく、できることは自分たちでやる。自分たちのまちですから。そうやって公園もまちもよくしていきたい」と語った。

みどり第1公園のリニューアル完成予定は平成28年2月末。田中さんは、「できあがったら、まちに住むいろんな人と公園でふれあいたい」と期待に胸を膨らませている。

藤塚米島線が開通。 手に入れたのは“安心”と“友情”

平成25年に全線開通した
藤塚米島線を通じて自転車通学する
埼玉県立庄和高等学校の皆さん。
新しい道への思いを聞いた。



「おはよう！」

「おはようございます」

朝のはなみずき橋の上を元気な声が渡っていく。藤塚米島線を通じて通学する、埼玉県立庄和高等学校の生徒たちだ。全校生徒約600人のほとんどが自転車で通学している。

春日部駅方面からも、30分以上かけて通学する生徒が少なくない。

同校の井上一也教頭は、

「今、自転車の事故が多いといわれています。しかも、自転車は車道を走るのが基本ルール。安全な道ができたらと思っています」

先生方の願いを叶えるかのように生まれたのが、平成25年に開通した都市計画道路藤塚米島線だ。

春日部駅周辺と南桜井駅周辺の2つの市街地を結ぶ全長2180mの幹線道路。歩道と並行して自転車道も整備され、人と自転車が安心して通れるようになった。

かつては、国道16号などほかの道を通じて春日部駅方面から通学していた生徒たちも、開通以来、藤塚米島線を使用するようになった。「すごく便利で安全になった」と口を揃える。

上蛭田に住む宮田ななみさん（3年生）は、普段は電車を利用しているが、晴れた日は藤塚米島線を走るために自転車通学に切り替える。

「新しい道だから、走っていて気持ちいいんです！」

同じく上蛭田在住の佐藤龍己さん（3年生）は、以前は国道沿いを通学路に使っ



歩行者と自転車が安心・安全に通行できる歩道と自転車道。

写真左から
 宮田ななみさん 春日部在住歴15年
 佐藤龍己さん 春日部在住歴12年
 藤井茉奈さん 春日部在住歴2年
 加藤諒汰さん 春日部在住歴10年



kasukabe PROJECT:02 藤塚米島線全線開通

平成25年5月11日、合併公約の重点項目である「都市計画道路 藤塚米島線」が全線開通。春日部駅周辺と南桜井駅周辺の2つの市街地を結ぶ幹線道路で、この開通によって国道16号から国道4号バイパス、そして南桜井駅南口付近まで1本の道路でつながった。自転車道の整備や、太陽光パネルを利用したLED照明灯など、安全性や地域の利便性の向上が図られた。

ていた。

「藤塚米島線はトラックがあまり通らないので、排気ガスが少なく、空気がきれいいところがいいですね」

大沼から自転車通学をしている藤井茉奈さん(2年生)は、

「自転車と人が通る道が分かれているから安全に走れます。イベントの前など、生徒会の活動で学校を出るのが夜8時になることもあります。そんなときも、道が明るく、人の目も結構あるので安心できます」

藤塚米島線は夜になると、太陽光パネルを利用したLED照明灯が点灯する。道の明るさが確保されているのだ。

安全な道のおかげで 行動範囲も広がった

藤塚米島線ができてよかった点は、安全性や利便性だけではない。

「車道をはなれることができなくなり、安全な道だから、帰り道が同じクラスメイトと仲よくなりました(宮田さん)」

加藤諒汰さん(2年生)は、栄町在住。通学で利用する機会は少ないが、休日などによく使う。

「藤塚米島線ができてからは、庄和のほうへよく遊びに行くようになって、行動範囲が広がりました」

「越谷方面の友人も遊びにきてくれるようになって、友情が深まりました(藤井さん)」

「新しくなった道路は、生徒たちの高校生活に“安心”や“友情”という大きな幸せをもたらしたようだ。」

南桜井駅前整備完了

桜台商店会の方たちの幸せスポット

南桜井駅前がきれいになって 息子夫婦が孫を連れ、 戻ってきてくれた

庄和地域の玄関口、南桜井駅前の整備が完了してから2年。まちの変遷をつぶさに見てきた桜台商店会の皆さんに、庄和地域の暮らしの変化について伺った。

駅前整備について伺うと、開口一番、「昨年、息子夫婦が孫を連れて東京から戻ってきてましてね」

とうれしそうに頬を緩ませるのは、駅前でケーキ店を営む岩越正明さん。環境のいい場所です育ててをしたい、南桜井駅は電車の本数も増え、東京への通勤も便利になった。息子さんたちは、そう思った思いからUターンしてきたのだ。「たしかに、ここ最近、若いご夫婦で庄和に戸建住宅を建てて引っ越してくる人が増えている気がしますね」

と語るのは、地元で工務店を営む海老沼宏行さんだ。

二方で、昔から長く住んでいる人もた



くさんいますよ。しかも、このあたりの人は皆親切でいい人ばかりですよ」

大きくうなずいたのが、駄菓子店を経営する水野悟さん。南桜井駅北口にある桜台商店会の会長でもある。

「まちの整備が進んでも、このあたりは人情が残っています。おかずを持ってきてくれたり、どこかへ行くと『はい、お土産』って届けてくれたり。人がいいから新しい人も住みやすいでしょう」

駅前の広場を活用して マルシェを企画したい

地域の活性化のため、桜台商店会ではイベントにも力を注いできた。

代表的なのは、10月第一土曜日に開催の桜台秋まつり。郷土芸能が披露される、駅前の広い道路を人が埋め尽くすほどの盛況となる。そのほか、11月には小学生に物販を体験してもらい、商いのおもしろさを知ってもらう「子どもあきんど塾」も開催。子どもたちに大人気のイベントだ。

さらに、駅前ににぎわいをもたらすための試行錯誤は続いている。同商店会の精肉店の二代目関根敦史さんは「今後はマルシェなど都会でも人気のイベントを企画して、整備された駅前広場をもっと活用していきたい」と熱く語る。ハード面が整い、「にぎわい」という仕組み作りをする次のステップに向けて、まちは動き出そうとしている。



同プロジェクトでは、暗い印象であった駅の地下道にLED照明を設置。壁面には明るい空をイメージした画を整備した。



kasukabe PROJECT:03 南桜井駅前整備完了

合併公約事業の一つ。南桜井駅周辺は道路が狭く、駅前広場など基盤整備水準が低かったため、円滑な通行に支障があった。そのため、道路整備を行うとともに、北口・南口駅前広場、自転車駐車場などの整備を平成18年度から進めた。自転車駐車場には太陽光パネルを設置。CO₂の削減、維持管理費用の軽減に配慮した。平成25年4月完成。

写真左から
(後列)

青木正晴さん 春日部在住歴50年
小河原隆秀さん 春日部在住歴4年
海老沼宏行さん 春日部在住歴62年

大枝忠雄さん 春日部在住歴50年
岩越正明さん 春日部在住歴34年
関根敦史さん 春日部在住歴42年

(前列)
水野 悟さん 春日部在住歴66年
塚田昭子さん 春日部在住歴43年

国土交通省首都圏外郭放水路

大須栄一さんの幸せスポット

放水路によって浸水被害が 減ったことが私たちの誇りです

通称「地下神殿」と呼ばれる首都圏外郭放水路。日々その管理をして、私たちの暮らしを浸水から守っている、国土交通省の大須栄一さんが案内してくれた。



大須栄一さん

国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所 首都圏外郭放水路管理支所長。平成25年から現職。茨城県古河市在住の46歳。

江戸川沿いにある広々とした多目的グラウンド。その隅に入り口があり、1000段以上の階段が地下へと招く。下りていくにつれ、地上の物音がしなくなり、夏なのに空気がひんやりしてくる。

下り切った先には、薄明かりの中、静かにそそり立つ、巨大なコンクリートの柱の列が浮かび上がる。

その様子はまさに神秘的。通称「地下神殿」と呼ばれる所以だ。年間3万人以上の来場者があるというのもうなずける。だが、観光目的の施設ではない。中川・綾瀬川流域を守る治水施設である。

案内してくれた国土交通省の大須栄一支所長は、次のように説明する。

「この地域は、川に囲まれ、土地が低く、水がたまりやすい。昔から大雨になると浸水の被害が絶えなかったんです」

この被害を減らすため、昭和50年代に計画されたのが首都圏外郭放水路だ。放

水路は川と川をつなぐ水の路。大雨で中川などがあふれそうときは、放水路の水門を開いて江戸川に流し洪水を防ぐ。通常は地上で作られるが、この計画が立ちあがった頃、すでに春日部の街並みが出来上がっていた。そのため、放水路により地域を分断すると、地域に悪影響を及ぼすことが懸念されたことから、国道16号の地下に川のトンネルを作ることになった。

地下放水路は日本初の試みで規模も大きいため、当時の土木技術の粋を集めての工事となった。直径10mのシールドマシンを導入したことで、規模のわりに工期が短縮されている。この工事には、平成9年に開通した東京湾アクアラインの掘削技術が活用された。

工事が始まったのは平成5年。地下に施設を作るため、外からは何をしているのかわかりにくい。住民に不安を与えないため、要所要所で見学会や説明会を開いた。

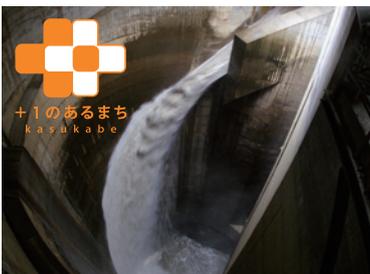
古い地層から化石が出てきたときは、住民を招いて、化石掘りのイベントも開催。住民とのコミュニケーションを大切にしながら事業が進められた。

365日24時間体制で水を監視し、地域を守る

完成は平成18年。以来365日24時間体制で、国土交通省の職員等が交代で水の監視に当たっている。いつでも稼働できるように、通常は点検やメンテナンスを行い、出水した際には、総出でポンプ運転などに当たる。

この施設が誕生してから、流域の浸水被害は大幅に減った。大須支所長は、

「春日部をはじめ流域の浸水被害が減ったことは、この仕事の大きなやりがい。自分の誇りにつながっていますね」と胸を張った。



+1のあるまち
kasukabe

kasukabe PROJECT:04 国土交通省 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、あふれそうになった中小河川の水を地下に取り込んで、地下50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に流す、世界最大級の地下放水路。トンネルは国道16号の下に作られている。地下神殿と呼ばれているのは江戸川近くにある調圧水槽。各河川から集まった水の流れをいったん弱めてから江戸川に流す働きをする。見学は要予約。詳しくは、首都圏外郭放水路HPへ。

取材協力・写真提供＝国土交通省 江戸川河川事務所

AR動画。詳しくは裏表紙をご覧ください。

いまでは春日部がふるさと 海外から戻ると安心する

10歳でパキスタンから来日して7年。外国人スピーチコンテストで一般審査員賞を受賞したジョハム・ナフィースさんが感じる春日部の魅力とは。

ジョハム・ナフィースさんは、埼玉県立春日部高等学校の定時制に通う3年生。

同校の定時制は日本語指導があり、多国籍の生徒が多く通う。英国での生活経験もあるナフィースさんは、3カ国語が話せるトリリンガル。多国籍のクラスメイトたちと自在に話ができる。

「春日部高校は本当に楽しい。友だちとおしゃべりするのも大好き」

春日部に住むようになったのは、来日の半年後。都内から引っ越してきた。

「春日部は時間の流れがゆっくりで、住んでいる人も親切ですね」

例えば、人とぶつかるとお互いがすぐに謝る。そんな人のやさしさを実感することが少なくない。

将来は世界を駆けまわるジャーナリストになるのが夢と語る。

「ここに行ったらとしても、春日部を思い出すと思う。このまちは何より気持ちが落ち着きます。私のふるさとですね」



ジョハム・ナフィースさん
市内で貿易会社を営む父と、専業主婦の母、自身を含めた兄弟4人の6人家族。全員で市内に住んでおり、春日部在住歴は7年。



19回目となる今回は中国、アメリカ、ミャンマーなど8カ国12人が発表し、受賞者は3人。ジョハム・ナフィースさんは「我慢すれば、夢は叶えられる」で一般審査員賞を受賞した。

 **kasukabe PROJECT:05**
外国人スピーチコンテスト

春日部市をはじめとする埼玉県内で生活している高校生、大学生、社会人、主婦などの外国人の方が、日頃の生活で感じることや将来の夢といった自由なテーマで日本語によるスピーチを行うことで、異文化理解を促進するもの。春日部市国際交流協会(KIFA)と市の共催。第19回は平成27年2月1日、春日部市中央公民館講堂で開催された。



写真左から
 石塚凱祥さん 武里団地自治会協議会会長
 伊藤嘉秀さん 平成25年3月入居(共栄大学)
 永倉里菜さん 平成27年6月入居(埼玉県立大学)
 曾根颯太さん 平成27年4月入居(共栄大学)
 鈴木奈津子さん 平成27年6月入居(埼玉県立大学)
 山本健吉さん けやき祭り実行委員長



日本工業大学の学生が企画したイベントがきっかけで、団地住民の皆さんが自分たちで運営を始めた「ふれあい喫茶」。週1回の交流の場として「ここに来るとホッとします」「この日が楽しみ」とたくさんの笑顔で包まれ、今でも100人以上が集まる。

kasukabe PROJECT:06 官学連携団地活性化推進事業

昭和41年に入居が開始された武里団地は最盛期には2万人以上が居住。ところが、最近では1万人を切り、入居者の高齢化も課題となっていた。市では平成23年、包括連携する近隣の大学の学生にルームシェアで住んでもらい、家賃や交通費を補助する代わりに地域貢献活動に取り組んでもらう事業をスタートさせた。自治体として初の試み。

官学連携団地活性化推進事業

伊藤嘉秀さんたちの幸せスポット

若い力で武里団地を盛り上げていきたい

人口の減少と高齢化が課題の武里団地。その活性化のため、近隣の学生たちが暮らし始めた。彼らは戸惑いながらも「役に立ちたい」と日々奮闘している。

「おいしいクレープ、いかがですか〜!」

年に一回の武里団地のお祭り「けやき祭り」

の会場で若者の声が響く。官学連携団地活性化推進事業に賛同し、団地に入居している学生たちだ。開始した年は2人だったが、5年

目の現在、12人が入居している。今年入居の共栄大学教育学部1年生曾根颯太さんは、

「他愛もない話をしているだけなのに、高齢者の方が、『若い人と話をするとうれしい』と喜んでくれる。喜ばれると僕もうれしくて」

もつと喜んでもらえるような企画を自分で考えていきたい、と目を輝かせる。

共栄大学教育学専攻科の伊藤嘉秀さんは、

入居3年目。

「幅広い世代が暮らす団地の生活は教職を目指す自分にとって日々学ぶことばかり」とイベントにも積極的に参加している。

「若い人たちが手を貸してくれて助かる。できれば、卒業後も暮らし続けてほしい」

と武里団地自治会協議会の石塚凱祥会長。伊藤さんはこの思いに応えるように話す。

「武里団地では楽しく過ごさせてもらっている。卒業後も住み続け、学生を増やす活動をするなど、恩返しをしていきたい」

事業が始まって5年。団地活性化の取り組みは着実に実を結びつつある。

みは着実に実を結びつつある。

新病院、完成間近！ 医師の決意も新たに

平成28年3月の竣工を目指し、
新春日部市立病院の建設が着々と進んでいる。
診療を担当する医師や看護師の皆さんに
新病院への思いについて伺った。



AR動画。詳しくは裏表紙をご覧ください。

kasukabe PROJECT:07 春日部市立病院再整備事業

市立病院は地域の中核的医療機関として地域医療の向上に貢献してきた。しかし、近年、施設の老朽化が著しくなり、快適な医療環境の提供が困難な状態になってきた。このため、平成20年3月に策定した春日部市総合振興計画で市立病院の再建・充実を掲げ、再整備を重要な施策と位置付け、平成28年3月の竣工を目指し、整備を進めている。

市役所の屋上から、建設中の新病院を眺め、

「こんなに進んでいるんですね」

と感慨深げに顔を見合わせたのは、三宅洋病院長、泌尿器科の蜂矢隆彦部長、外科の君塚圭部長、呼吸器外科の田川公平部長、吉川孝子看護部長。新病院で診察や治療、看護することが決まっている医師や看護師だ。

「新病院全体としての大きな特長は、災害に強い病院であることと、待たせない病院であることです」と語るのは三宅病院長。そのほかにも、延べ床面積が現病院の約1.5倍となり、総合診療科、糖尿病・代謝内科、形成外科、緩和ケア科などの新しい診療科も作られる。

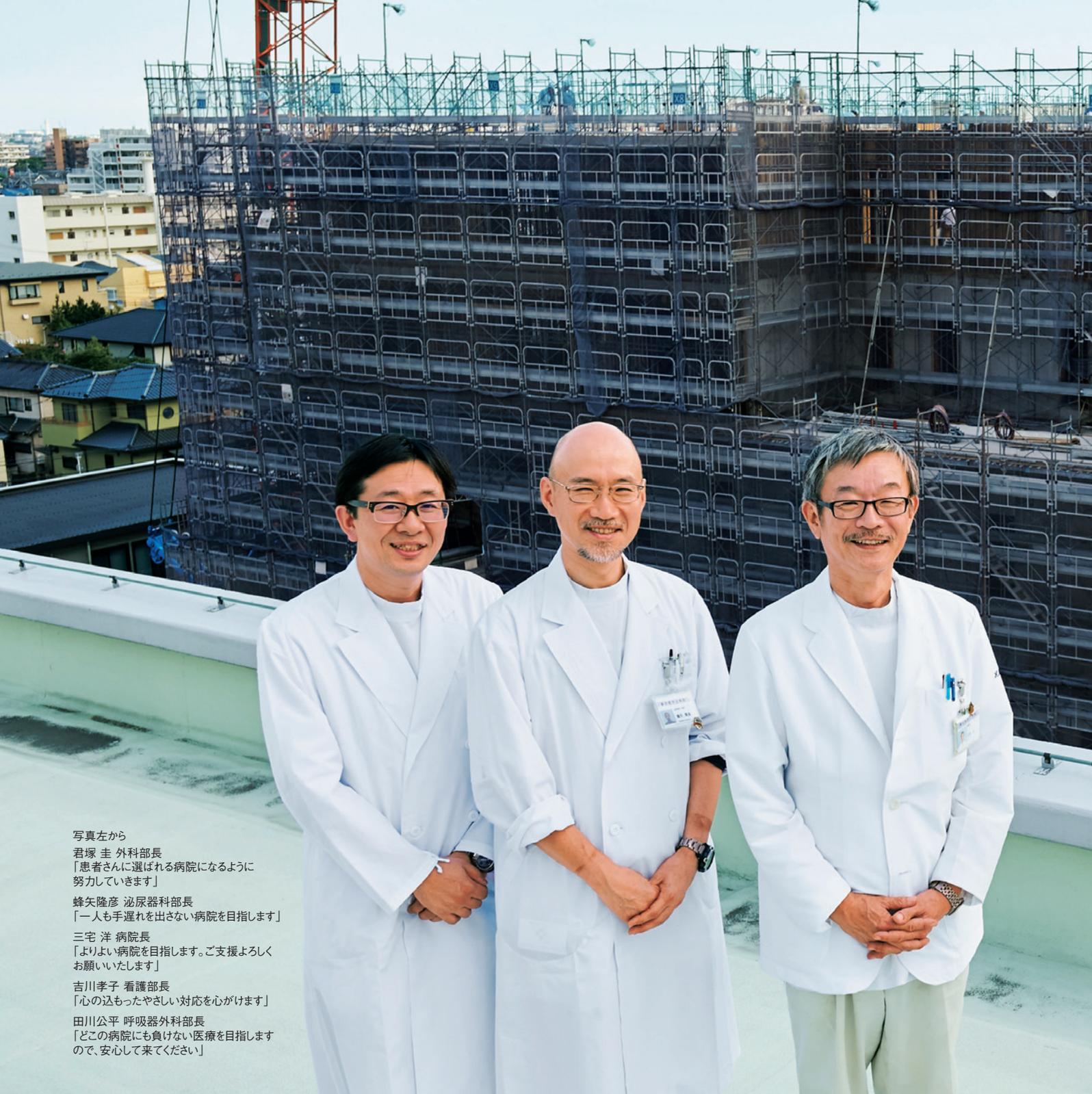
また、診療面では、がん診療に充実した医療を行うのも特長。日本中どこでも質の高いがんの治療が受けられるよう、国では「がん診療連携拠点病院」を指定している。市立病院は、この指定を受けた県内13病院の一つだ。

現在、末期がんの多くの人が病院で亡くなるが、一方で、多くの人は自宅で最期を迎えたいと考えている。

「そこで新病院では、医療と福祉が連携し、訪問型医療にも力を入れ、できるだけ患者さんの希望に沿った医療を提供します」（三宅病院長）

**手術ができなかったがんも
根治を目指す**

新病院でどんな治療が受けられるの



写真左から

君塚 圭 外科部長
「患者さんに選ばれる病院になるように
努力していきます」

蜂矢隆彦 泌尿器科部長
「一人も手遅れを出さない病院を目指します」

三宅 洋 病院長
「よりよい病院を目指します。ご支援よろしく
お願いいたします」

吉川孝子 看護部長
「心の込もったやさしい対応を心がけます」

田川公平 呼吸器外科部長
「どこの病院にも負けない医療を目指します
ので、安心して来てください」

か、各診療科の部長に伺った。

まずは泌尿器科。これまでも日本の
大学病院、がんセンターに匹敵する治
療を行ってきた診療科である。

「高い診療レベルを維持します。特に
前立腺がん、膀胱がんは手遅れを出さ
ないよう漏らさずに救い上げていきま
す。それ以外の泌尿器科疾患につい
ても最善の治療をしていきます」(蜂矢
部長)

外科は、新しく形成外科ができる。

「都内に行かなくてもガイドラインに
沿った標準的な治療が受けられます。
特に形成外科ができるので、乳がん
で乳房を切除した場合も形成ができる
ようになります」(君塚部長)

呼吸器外科では、最新の放射線治療
の機器が導入される予定だ。

「かつて根治不能だった進行性の肺が
んも、今は根治が可能です。これまで進
行して手術の対象にならなかったがん
も、新病院では手術できる体制が整っ
ています」(田川部長)

また、看護の面でも、看護師に声がか
けやすいようにナースステーションを
オープン型にするなど、さまざまな工
夫を凝らした。

「つらい病気の負担が少しでも軽くな
るようお手伝いします」(吉川部長)

病院は命や健康を守る大切な施設。
新しい医療設備が整い、医師や看護師
などの強い思いが込められた新病院の
誕生で、市民は、より健やかに、安心し
て暮らせるようになる。

春日部駅付近連続立体交差事業で 便利に、仲よく、幸せになる

石川良三市長と東武鉄道の牧野修専務取締役鉄道事業本部長にご登場いただき、市と鉄道との連携による春日部のこれまでの10年、そして今後の10年について語っていただいた。



AR動画。詳しくは裏表紙をご覧ください。

kasukabe PROJECT:08 春日部駅付近連続立体交差事業

春日部駅付近には東武スカイツリーラインと東武アーバンパークラインを合わせて10カ所の踏切があり、東西交通の円滑化と安全性の確保が課題。さらに、駅周辺の中心市街地が鉄道で分断されているというまちの構造は、まちのさらなる発展を抑制。これを解決するために、事業主体の埼玉県とともに平成29年度都市計画事業認可を目指している。

石川 牧野専務は春日部高校のご出身。当時と比べて駅周辺はどうですか。

牧野 昔は駅周辺にも畑があつてのどかでした。春日部はずいぶん変わりましたね。市としてみると、今は市内に8つもの駅がバランスよく配置されている。なかでも、春日部駅は当社にとって主要な路線2つが交わる拠点性の高い駅。10年前から比べると利用者が5%も増えています。利便性を高めれば、利用者も住民も増えると思います。

石川 ありがとうございます。

東武鉄道さんは、東武伊勢崎線に『スカイツリーライン』という愛称をつけるなど、ここ10年でスマートなイメージになりましたね。沿線の市とコラボしてまちをよくしていこうという姿勢も強く感じます。東京スカイツリータウン®には春日部の大凾も飾ってもらいました。コラボして、沿線を押し上げていくことで、1+

1が3にも5にもなると思っています。





牧野 修さん

東武鉄道専務取締役鉄道事業本部長。春日部高校卒業。昭和45年から40年近く通勤や通学で毎日春日部駅を通っていた。

石川良三 市長

春日部市と庄和町が合併した平成17年に春日部市長に当選。以来3期を務める。「日本一幸せに暮らせるまち、春日部」を目指す。

**まずは春日部駅の高架化を
少しでも早く推し進めたい**

石川 現在、東武鉄道さんに関連する市の重要な事業の一つが鉄道の連続立体交差事業。平成29年度の事業認可を目指していますが、完成すれば、春日部だけでなく、沿線全体がパージョンアップするでしょう。

牧野 私どもにとっては踏切の廃止になりません。それによって交通渋滞を解消し、まちの分断が解消されます。まずは、早く春日部駅の高架化に着手できるように協力したいですね。

石川 それはありがたい。駅の高架化でまちの印象がまるっきり変わります。

牧野 鉄道会社は地域とともに成長してきました。できるだけ、のことはしたい。

例えば、28年度からは、大宮ー春日部間の急行運転が始まり、東武スカイツリーラインと東武アーバンパークライン(野田線)の直通運転も計画しています。大宮には新幹線が停まりますので利便性が高まります。新型車両の導入も進めている。新しいことで沿線の皆さんに笑顔になっていただきたいです。



石川 今、春日部市はコンパクトシティを目指しています。中心部に重要な機能を集め、利便性や地域のポテンシャルを高めようとしている。春日部駅の近くに新病院も作っているところ。子育て、ショッピング、レジャー、医療など、どんなことも春日部に行けばことが足りる。同時に自然や歴史・文化も享受できる。そんな地域にしていきたいですね。

<こちら、シティセールス広報課です!>

INFORMATION

春日部市の歌「心の空」が完成!

かすかべ親善大使のあえかさんが、市民の皆さんの声をもとにつくりました。悲しいときや悔しいとき、いつでもどんなときでも、ふるさと春日部を思い出すと頑張れる。ふと口ずさめて、やさしく耳に残る、親しみやすい、そんな歌です。ぜひ、聴いて、歌ってみてください。詳しくは市公式HPへ。



心の空
あえかさん

みんなでシティセールスシンボルマークを使おう!



+1のあるまち
kasukabe

プラスワン「+1」とはこのまちに住む一人ひとりが大切に想う「春日部の好きなところ(魅力)」のこと。マークを使ってみんなで魅力を共有しよう。詳しくは市公式HPへ。

この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。



シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(アール)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma(オーラズマ)」をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。

PRESENT

感想をお寄せいただいた方の中から、抽選で8名様に「かすかべ親善大使の皆さん」から新・春日部市施行10周年を記念して、すてきなプレゼント!



内山高志さん
WBA世界スーパーフェザー級チャンピオン



ビビの大木さん
シネマ



増村紀一郎さん
透きによる重要無形文化財(人間国宝)



茂木健一郎さん
医科学者



あえかさん
シンガーソングライター



井田寛子さん
気象予報士



太田裕美さん
シンガーソングライター



平井信行さん
気象予報士

- 応募受付期間…平成27年10月1日(木)~平成28年2月1日(月) 必着
- 応募方法……………①市公式ホームページ内専用フォームから応募ください。
②官製はがき以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。

お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号 プレゼントを希望する親善大使名
本誌の入手先 よかった記事(ページ番号) ご意見・ご感想
《応募宛先》〒344-8577 春日部市中央六丁目2番地
春日部市役所シティセールス広報課 かすかべプラス第5号プレゼント係

*賞品の当選は発送(2月中旬)をもって発表に代えさせていただきます。
*応募の際にご提供いただく個人情報(氏名・住所等)は当企画以外の目的には使用しません。

▼専用フォーム



この冊子には、春日部市をもっと好きになつてもらいたいという思いを込めています。そのことが伝わっているのは何よりうれしく、市民の皆さんとたくさん接することの大切さを実感しています。これからの未来、市民の皆さんにとっての「幸せアルバム」のページをもっと増やしていきたいと思っています。

金子忠之 河西文仁 重枝紗智子
山崎嘉那子 湯田聡美
春日部市シティセールス広報課

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌
kasukabe+ 2015 FALL / WINTER

発行日 平成27年10月
発行 春日部市シティセールス広報課
〒344-8577 埼玉県春日部市中央六丁目2番地
tel 048-736-1111
ISSN 2188-1928

制作協力・印刷・製本 共同印刷株式会社

*本誌の無断転載・複製を禁じます。

本誌は、埼玉県ふるさと創造資金の補助を受けています。

EVENT

11月は春日部のまちが音楽に包まれます

11/3
(火・祝)

ブラス・ジャンボリーinかすかべ

会場:ふれあいキューブ / 主催:春日部市

11/22
(日)

わがまちの音楽家たち

※要整理券
会場:春日部市民文化会館大ホール / 主催:春日部市



11/1(日)
30(月)

まちかどコンサート

会場:商店など市内各所 / 料金:会場ごとに異なる / 主催:まちかどコンサート実行委員会

11/7
(土)

JazzDayかすかべ 2015秋

会場:中央町第4公園ほか / 主催:ジャズデイかすかべ実行委員会

11/15(日)
28(土)

ファミリーコンサート

会場:エンゼルドーム / 主催:エンゼルドーム

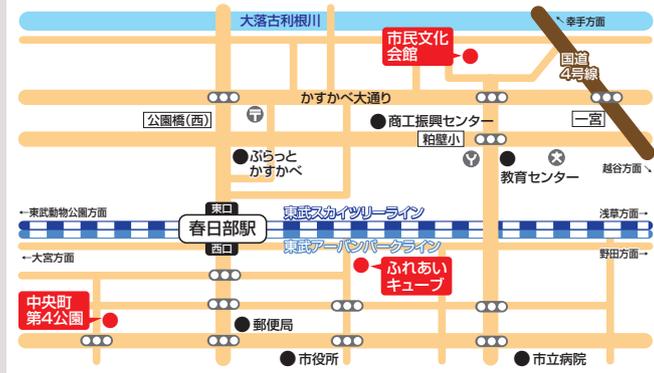


11/23
(月・祝)

平和コンサート

※要整理券
会場:春日部市民文化会館小ホール / 主催:春日部市

アクセスマップ



READERS VOICE

読者からの
声を紹介!

“散歩に出かけたい!春日部パブリックアート”と題した「アート」をテーマとした前号のかすかべ+第4号。たくさんの方から声をお寄せいただきました。ありがとうございます!

我が街春日部に、こんなにも彫刻作品が溢れているなんて、少し誇りを持って自慢が出来ると思いました。

市内在住 40代 女性

休日に妻と知らない街を散歩したり探索するのが楽しみにしているの、春日部の街をゆくりと散歩してみたいと魅力を感じました。

市外在住 50代 男性

「編集後記」

今回のテーマは「新市施行10年の歩み」です。旧春日部市と旧庄和町が合併して新しい春日部市が誕生したのは平成17年10月1日のこと。今号の表紙は、まさにその日に生まれた市内の小学校に通う子どもたちとそのご家族にご協力いただきました。子どもたちのあどけない笑顔と、子どもの様子をあたたくく見守るお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族って本当にいいものですね。



表紙の人:新市施行10年の平成27年10月1日、ちょうど10歳の誕生日を迎える市内の小学生4人に協力いただきました。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用



春日部市



+1のあるまち kasukabe